

環境調査結果のお知らせ

概況

本日、環境調査を行いましたので結果を送付いたします。

検鏡の結果、赤潮原因プランクトンであるメソディニウム・ルブラムが最大2細胞/mL確認されました。

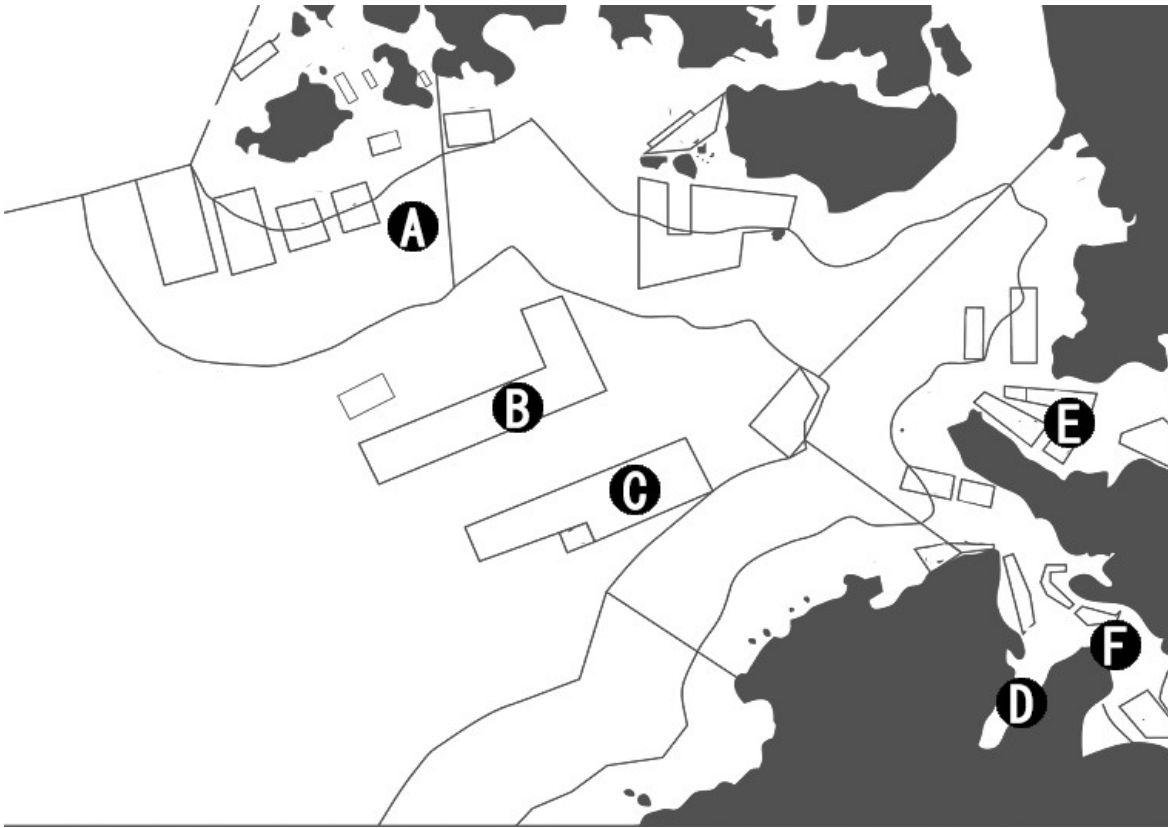
今後、飼育魚や海色等に異常が確認された場合は、海水をペットボトル等で採集し、漁協もしくは宿毛漁業指導所にご連絡下さい。

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン	
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	メソディニウム・ ルブラム
A 藻津 (-/36m) 【09:06】	0	28.9	31.7	6.2	0	0
	5	28.4	33.0	5.9	0	0
	★ 10	27.8	33.1	5.6	0	1
	15	27.5	33.1	5.4	0	0
	20	26.4	33.2	5.8	-	-
B 大島中央 (-/33.3m) 【09:18】	0	29.0	30.9	6.3	0	0
	★ 5	28.0	33.0	5.8	0	0
	10	27.6	33.1	5.4	0	0
	15	27.4	33.1	5.3	-	-
	20	26.7	33.3	5.5	-	-
C 小筑紫中央 (-/49.8m) 【09:26】	0	-	-	-	0	0
	5	28.1	33.0	5.9	0	0
	★ 10	27.7	33.1	5.2	0	1
	15	27.3	33.2	6.1	-	-
	20	26.6	33.3	6.4	-	-
D 栄喜奥 (-/14m) 【09:43】	0	29.2	30.8	6.2	0	1
	5	28.3	33.0	5.6	0	0
	★ 10	27.5	33.2	5.0	0	0
E ヒロウラ (-/25m) 【10:02】	0	29.2	28.7	6.0	0	0
	5	28.0	33.1	5.1	0	0
	★ 8	27.2	33.2	5.1	0	0
	10	27.1	33.3	5.5	0	0
	15	25.4	33.5	5.1	-	-
	20	23.5	33.8	5.4	-	-
F 青瀬山 (-/16.8m) 【09:49】	0	29.4	29.1	5.4	0	0
	5	28.5	33.0	5.8	0	2
	★ 10	28.2	33.1	5.3	0	0
	15	26.3	33.2	4.9	-	-

クロロフィル量が極大の深度および、0m、5m、10mの深度から採水した海水の検鏡を実施しています。

★：採水したサンプルの内クロロフィルが極大であったもの

こちらの「環境調査」は、高知マリンイノベーション情報発信システム「NABRAS」(URL：<https://kmi-nabras.pref.kochi.lg.jp>)においてもご覧いただけます。



- A: 藻津 D: 栄喜奥
 B: 大島中央 E: ヒロウラ
 C: 小筑紫中央 F: 青瀬山

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5~8月	6~8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6~8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2~4月	5~6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3~12月	4~8月	4~11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6~7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8~9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8~11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1~4月	3~5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2~7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。